

## <連載 6> 被爆ハマユウと被爆ピアノ、職場で平和の祈りを！

理事長 高見 優



●本年7月23日の朝、鉢植えした「ハマユウ」に純白の花が咲きました。とてもきれいな花です。ちょうど半年前、東京のある集まりでビニール袋に入れた株を手渡され育ててほしいと頼まれ、それを新幹線で大事に持ち帰ったものです。(しばらく本部事務所に置きます)

○広島市・爆心地から約2kmの比治山にあった「陸軍船舶砲兵団」(通称・暁部隊)の尾島良平さん(兵長)が、ハマユウを兵舎の庭でこっそり育てました。8月6日、原爆の直撃を受け尾島さんも吹き飛ばされて気絶し、胸骨3本を折る重傷を負い入院したものの奇跡的に助かったそうです。

11月に退院し比治山を訪ね、崩れた兵舎の前で亡き戦友たちを偲び手を合わせたところ、瓦礫の間から細長い緑の葉が見え、ハマユウが新しい葉を必死に伸ばし生きていた！土の中から球根を掘り出してリュックサックに入れ、実家の鎌倉へ持ち帰り育てました。

●尾島さんは、この被爆したハマユウを「破魔勇」と書き、原爆にも負けず、恐ろしい悪魔をも打ち破るほどの勇ましいパワーを持っていると賞賛し、純白の被爆ハマユウを、核兵器の脅威がこの世からなくなるまで、反核・平和のシンボルとして広げようと決意しました。

知り合いの被爆者の墓前に被爆ハマユウを植え、さらに広島の平和公園、神奈川県にある大船観音の被爆慰霊碑、ビキニの水爆実験による死の灰を浴びた第五福竜丸などの地に運び、平和への願いを込めて黙々と植えてきました。

1979年に尾島さんが69歳で亡くなった後は長男の真次さんが被爆ハマユウを守り育て、また故人の遺志を継いで1995年に設立した被爆ハマユウ・クラブが、反核・平和のため被爆ハマユウのさらなる普及に努めています。(国内20か所、国外6か所)

○被爆ピアノは、被爆2世の調律師である矢川光則さん(67)が、被爆ピアノをトラックに積んで自ら運転して全国で演奏会を開催しています。(「海をわたる被爆ピアノ」講談社ほか。映画「おかあさんの被爆ピアノ」製作中、2020年夏公開予定)

7月30日～8月1日の3日間、新潟市西区、長岡市、阿賀野市で、市民や長岡市が主催する演奏会、平和の森コンサートで、大勢の市民が被爆ピアノの演奏に聞き入っていました。そのピアノの脇に「被爆ハマユウ」を置かせてもらいました。

●被爆ピアノは、ガラス片がささったままです。ピアノの音色は「痛いよう」「頑張ってる」などと聞こえたとか、ひきこもりの子どもが自分で鍵盤をたたいて元気を取り戻したとか、聞きました。

また、演奏会を主催した方から、ご自身のお母さんが、新潟原爆投下の知らせにより市街地から家財道具をリヤカーに積んで郊外まで避難したという話を聞かせてくれました。

私たちが、支え合いの地域社会をつくらうとするなら、どの地域も平和でなければなりません。

この暑い(熱い)8月の6日、9日または15日に、全職場で役職員・利用者一同そろって、平和な社会を維持・発展させるよう決意し、心を込めて祈り、黙とうしたいと思います。

(ご感想・ご意見をお寄せください：編集部)